

北海道立市民活動促進センターは、地域社会のニーズに的確に応えようとするNPOなどの道内の市民活動を応援しているセンターです。

## 特集

## カラーユニバーサルデザイン

「ユニバーサルデザイン」という言葉を最近、見たり聞いたりしますね。今回は「色」を焦点にした「カラーユニバーサルデザイン」について、NPO法人北海道カラーユニバーサルデザイン機構の理事長 谷越律夫さんから、ご紹介いただきます。

### 【色弱とその人数】

色の見え方や感じ方が多くの一般の方と違う方がいらっしゃる。つまり「色弱」で、日本人の場合、男性の20人に1人(5%)、女性の500人に1人(0.2%)いらっしゃると言われています。その数は、北海道で14万人以上、日本全体では300万人を超える人数です。また、色弱の遺伝子を持つ保因者の女性は10人に1人いらっしゃるとも言われています。この保因者の女性自身は色弱ではありませんが、男の子を生んだ場合50%の確立で色弱の子が生まれます。これらの人数は、今まで一般にあまり知られていませんでした。

色弱には大別してP型強度、P型弱度、D型強度、D型弱度の4つのタイプがあり、見え方や感じ方にも微妙な特性があります。「色弱者は色がわからない・・・」という誤解を耳にする事がありますが、これは誤りです。「特定の範囲で混同しやすい色がある」という方が適切ではないかと思えます。

### 【色使いの配慮の必要性】

色弱は伴性劣勢遺伝という遺伝で伝わり、遺伝子のタイプの違いで生じます。私たちの血液型を変える事ができないのと同様に、色覚タイプも変える事ができません。色弱のさまざまな不便や誤解を、色弱者の努力で克服する事が非常に困難な状況とも言えます。つまり、この色弱の問題は社会全体で考え配慮すべき問題とも言えます。

現在の色彩環境は、色弱の正しい知識や情報の不足等から一般の方だけの見え方や感じ方を考え作られたものがほとんどであり、結果的に色弱者がその色に含まれる情報を読み取れずに不便を感じるケースが見逃されてきました。

### 【カラーユニバーサルデザインとは】

多様な色覚に配慮して、色に含まれるさまざまな情報がきちっと正確に伝わるように利用者側の視点に立って作られたデザインを、カラーユニバーサルデザイン(CUD)と言います。さらに、色弱の正しい知識や情報を社会全般に広くお伝えする活動も包括してCUDと考えています。

CUDにはその使用状況にもよりますが次の原則があります。一つは、より多くの人に見分けやすい色を使う。二つ目は、色以外の情報で補完する。三つ目は、色の名前の明記です。さらに、見た目により美しいデザインを追求することとなっています。

下にあるCUDマークに使われている赤・青・黄色・緑の4色はさまざまな色覚タイプの方にも区別しやすいように特別に調整された色調になっており、マーク自体がCUDの見本にもなっています。



(次頁へつづく)

# カラーユニバーサルデザイン

## 【CUDの実際】

昨今のパソコンやプリンターの普及で、私たちはさまざまなものを簡単に自由に作り表現できるようになりました。その情報伝達手段の一つとして「色」を効果的に利用し活用しています。その色使いや表現も、少しの配慮でより多くの方々に情報を正確に伝える事ができるのです。次により、CUDを実際に取り入れる方法や注意点などの一部を簡単にご説明させていただきます。

### シミュレーションツールの利用

色弱者の見え方を簡単に確認する手段として、パソコンのシミュレーションソフトを利用するという方法があります。無料でダウンロードできるものもあり、また、企業から無償で配布されるソフトもあります。いずれも簡単に入手することが可能です。(詳しくは、<http://www.color.or.jp/tool.html> をご覧下さい。)

ただ、これらのシミュレーションソフトは、色弱タイプそれぞれ強度の方の見え方感じ方の一例です。全ての色弱者がこのように見えているというものではありませんので、誤解のないように注意が必要です。

また、簡単に色弱者の見え方を疑似体験できるゴーグル型のメガネも開発され、デザイン業界や自治体などでも導入が広がっています。

### 色以外の情報を活用

色以外の情報として、アミの種類や濃淡の違い、塗り分けパターンの違いなどのハッチングを活用すると効果的です。この手法は、主にグラフや図版などに使用する事が考えられます。また、線種や形状を変えるという方法もあります。モノクロコピーをしても情報が伝わるような工夫をすると安心です。



### 明度・彩度の違いを利用

色弱者は色の明るさ(明度)や鮮やかさ(彩度)の差にはとても敏感です。色相を変えたくないケースでその色が混同色の場合であっても、明度や彩度の差を利用すると区別がし易くなります。

### 強調したい時

目立たせたり注意を促したりする場合、強調色として赤を用いるケースが一般的になっています。ところが、赤は色弱者には暗く沈んで感じる為に強調しているという情報が伝わらない場合が多々あります。赤を用いる場合、同じ赤でも朱赤を使うと良いでしょう。更に、ケースにもよりますがその赤の部分に下線を追記したり、或はそのフォントだけを太くしたり大きくしたり、色以外の情報で補完するとより効果的です。

### 境界線をつけて

色と色が重なっている場合、色弱者には背景に溶込んでとても見づらくなってしまいうケースが多く見受けられます。そのような場合、白や黒などの縁取りをする境界線をつけてあげると良いでしょう。地図などで道路に多色を用いる場合にも、その重なる部分を白く縁取るなどの配慮がしてあると効果的です。また、ベタ塗りの中に別な色で文字を配置するようなケースでも、境界線をつけるだけではっきり区別ができるようになります。

### 色名を明記

色弱者は、色の違いは分かっても、その色が何色なのかが分からないケースがあります。そのような時「赤」や「緑」等と色の名前が明記していると、迷う事もなく判断できとても助かります。特に、色名を使ってコミュニケーションする事が予想される場合には必須の配慮でもあると言えます。

カラーユニバーサルデザインに関しては北海道カラーユニバーサルデザイン機構のホームページでも詳しく紹介しています。ご覧いただき、何かご質問などがございましたら事務局までご連絡下さいませ。

<http://www.color.or.jp>

NPO 法人北海道カラーユニバーサルデザイン機構(北海道CUDO)

事務局電話(011)791-9450

# センターインフォメーション

## 今年度上半期に開催した講座等を一部紹介します。

### 「NPO実務講座」

～基礎・組織運営編／法人設立手続編～

今年度6回開催する「NPO実務講座」は、7月24日(金)、9月5日(土)に開催し、「基礎・組織運営編」は講師に東田秀美さん(NPO法人旧小熊邸倶楽部理事長、市民活動スペース アウ・クル代表)を「法人設立手続編」は二瓶志乃さん(北海道環境生活部生活局道民活動文化振興課主査)をお招きし、それぞれ「市民活動の基礎知識から組織づくりの入門編」と「NPO法人の制度や設立に必要な要件、手続き、書類作成のポイント」などについて学びました。

参加者からは「実体験に基づく講義で分かりやすく理解できました」「NPOとNPO法人の違いが良くわかりました」「法人設立について参考になった」などの感想がありました。



### 「市民活動ミニフェア」

～市民活動パネル展&視覚障がい者の観劇体験～

7月16日(木)、17日(金)の2日間、カルチャーナイト2009にあわせて、道内で活動している市民活動団体を紹介する「パネル展」と「NPO法人演劇鑑賞会北座」さんのご協力のもと「視覚障がい者の観劇体験」を開催しました。

来場者によるパネルの人気投票結果は、次のとおりです。おめでとうございます。

パネル出展団体数：40団体

投票数：161票

入賞団体

第1位：北海道国際女性協会(19票)

第2位：NPO法人 演劇鑑賞会北座(15票)

第3位：NPO法人 シニアネット(14票)



第1位入賞作品 北海道国際女性協会

### 「市民活動スキルアップ講座」

～“言葉で伝えるツボ”スピーチ実践塾～

9月13日(日)、コミュニケーションプロデューサー パワーコミュニケーション主宰の夏川立也氏を講師に迎えて、コミュニケーション力の向上を目的に相手にうまく、的確に思い伝えるためのスピーチの“ツボ”について学ぶ講座を開催しました。

参加者からは、「日常、人に伝える事が多いので大変勉強になりました」「楽しく学ぶ事ができました」「役に立ちました」などの感想がありました。



# センターインフォメーション

受講者  
募集中

## 当センターで開催する事業のお知らせ

### 市民活動スタッフ養成講座

#### 「NPO・NGOスタッフトレーニング2009」

市民活動のスタッフとして活動するための知識とノウハウを習得することを目的にした本格的な講座です。

是非、ご参加下さい。

日 時：全5日間（各 10:00～17:00）

10月17日（土）

10月18日（日）

10月24日（土）

10月31日（土）

11月1日（日）

場 所：北海道立市民活動促進センター研修コーナー

対象者：今後、市民活動団体（NPO・NGO）のスタッフとして活動していきたい方や市民活動団体の設立を考えている方、すでに活動している方など

内 容：（予定）

1日目：「組織運営の第一歩を体験する」

2日目：「市民活動にはなにが必要？」

3日目：「自分たちの活動をPRしよう！」

4日目：「聞き取り調査・車椅子体験」

5日目：「ボランティアは大きな人材！」

参加料：2,000円（全5日分）

定 員：20名（応募多数の場合は選考あり）

この講座は北海道教育委員会が主催する「道民カレッジ」の連携講座となっています。

### NPO実務講座

#### 「基礎・組織運営編 / 法人設立手続編」

この講座は、市民活動を展開していくための基本的な知識や手法について学ぶ「基礎・組織運営編」とNPO法人設立に必要な手続きや書類作成に関する知識の習得を図る「法人設立手続編」があります。

日 時：平成21年11月11日（水）

「基礎・組織運営編」17:00～18:45

「法人設立手続編」19:00～20:30

場 所：北海道立市民活動促進センター研修コーナー

対象者：市民活動に関心のある方、すでに活動している方など

内 容：「基礎・組織運営編」

講師：東田 秀美さん

（NPO法人旧小熊邸倶楽部理事長、

市民活動スペース アウ・クル代表）

講義：「NPOとNPO法人の基礎知識

（メリット・デメリット他）」

「組織づくりの入門編」など

「法人設立手続編」

講師：二瓶 志乃さん

（北海道環境生活部生活局

道民活動文化振興課協働推進グループ主査）

講義：「申請に必要な手続き」

「書類作成の留意事項」など

参加料：各編 300円（資料代）

定 員：各編 20名（先着順）

この講座は北海道教育委員会が主催する「道民カレッジ」の連携講座となっています。

### 市民活動スキルアップ講座

#### 「市民活動団体が経済的に

#### 自立できる事業とは」

市民活動団体が経済的に自立し、持続する可能性を高めるためには、事業のどのような工夫や仕組みづくりが必要なのか、について学びます。

日 時：平成21年12月8日（火）10:00～16:00

場 所：北海道立市民活動促進センター研修コーナー

対象者：市民活動実践者、市民活動関係者

内 容：講師 川北 秀人さん

（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表）

講義「市民活動が経済的に自立するために」

・事業の持続可能性を高める9つのポイント

・事業を上げる上で確認すべき9つのポイント

・企業や行政に「影響力のあるプログラム」を

つくる6つのステップ

参加料：1,000円

定 員：20名（先着順）

各講座の概要や申込等、詳しくは当センターホームページをご参照下さい。

### 当センターでは、市民活動に関する疑問・質問に相談員がお答えしています。

「NPOって何ですか?」「ボランティア募集の情報を知りたい」「助成金に関する情報を得るにはどうしたらいいの?」「市民活動団体の運営についてアドバイスを受けたい」「現在の活動団体をNPO法人化したい」など市民活動に関わる相談に相談員がお応えします。

来所、電話、FAX、メールなどで、お気軽にご相談下さい。

・TEL：011-261-4440

・FAX：011-251-6789

・E-mail：center@do-shiminkatsudo.jp

・URL：http://www.do-shiminkatsudo.jp

## 編集後記

短い夏が終わり、だんだん冬の足音が近づいて来るのを感じる季節になってきました。体調を崩さないようがんばりましょう。

（ヤ）